様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１４３０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０４４２７

研究課題名（和文）道徳の教科化に対応する社会科シティズンシップ教育における道徳性指導の改革

研究課題名（英文）Reformation of Morality Teaching on Citizenship Education in Social Studies which Corresponds to New Special Subject named Morality

研究代表者
水山　光春（MIZUYAMA, Mitsuharu）

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：８０３０３９２３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　「道徳の教科化に対応するべく社会科シティズンシップ教育における道徳性の指導をいかに改革すればよいか」を主題に、シティズンシップ教育における道徳性、及び価値観形成の意味や位置について検討するとともに、道徳性とシティズンシップの関わりについての教育のあり方を、英国、シンガポール、香港の先進3カ国・地域間で比較・検討した。
　その結果、現在の日本では、英国のようにシティズンシップを超えた人間性の開花を目ざす段階にまで議論が及んでいないこと、その点、シンガポールや香港のように、公民教育と価値教育の間にシティズンシップ教育を挟んでいくやり方が、日本における道徳性の指導にとって効果的であることを確認した。

研究成果の概要（英文）：In order to correspond to the introduction of moral education into new national curriculum, firstly, the meaning and position of morality and the formation of value in citizenship education were examined from the viewpoint of teaching reform of morality on citizenship education in social studies. Secondly, the way of education on the relationship between morality and citizenship was compared and examined among the advanced three countries of the UK, Singapore and Hong Kong.
As a result, following two points were clarified. 1) Currently in Japan, the argument did not extend to the stage aiming for the flourishing of humanity beyond citizenship like the UK. 2) From that point of view, the way of crossing citizenship education between civic education and value education like Singapore and Hong Kong will be effective for teaching morality in Japan.

研究分野：社会科教育学

キーワード：社会科教育　シティズンシップ教育　道徳教育　Character Education　シティズンシップ　道徳　価値　品格

１．研究開始当初の背景

「特別の教科 道徳」が、2018 年度から義務教育における学校カリキュラムに導入されることとなった。しかるに、新しい教科「道徳」で何をどのように扱い、いかに評価すればよいかは難しく、議論は新教科導入後も止むことがない。また、そのことが学校現場に大きな不安や困惑をもたらしている。不安には、①新しい教科をどのように教えればよいか、②既存の教科とどのような関係を築けばよいか、の大きく２つがあるが、とりわけ②における社会科との関わりについては、歴史的に他の教科と比べても関連性が強い分だけ不安も大きく、両者の独自性、或いは類似性を明らかにすることが、関係者にとって喫緊の課題となっている。

カリキュラムの歴史を振り返っても、戦後すぐには「道徳教育には社会科を中心として全教育活動で取り組む」と位置付けられていたことからも明らかなように、社会科と道徳はきわめて密接な関係にある。しかしながらこれまで、社会科の側から道徳の教科化をどのように受け止めるかの議論はほとんど行われてこなかった。過去５年間の主要三学会（日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、社会系教科教育学会）の大会シンポジウムのテーマを見ても、道徳教育と関連の深いテーマは設けられるものの、道徳教育そのもの、或いは道徳教育との関連に触れる提案がシンポジストからなされたことはなかった。

このような問題状況にあって、本研究では、鍵概念としての「シティズンシップ（教育）」、とりわけ重要な要素としての「道徳性や価値（観）」の扱いに着目し、社会科教育における道徳性の指導のあり方について検討する。

２．研究の目的

（1）シティズンシップ教育における道徳性、及び価値観形成の意味や、学習内容・方法論上での位置づけを検討し、社会科教育及び道徳教育の両面から総合的に考察し整理する。

（2）シティズンシップ教育において道徳性の育成に明確な位置づけを与えている諸外国（具体的には英国やシンガポール、中国・香港など）の事例を調査し比較することを通して、我が国のシティズンシップ教育における道徳性育成に求められる理念や授業実践上の課題を明らかにする。

３．研究の方法

（1）社会科教育における道徳教育、道徳教育における社会（性/科）教育、双方の視点から、社会科教育と道徳教育との関連や課題を整理する。

（2）シティズンシップ教育における道徳性や価値観の指導のあり方について、英国の Character Education を視点として整理する。

（3）(2)で明らかになった視点をもとに、アジアにおけるシンガポールや香港におけるシティズンシップ教育と道徳教育の関わりについて検討する。

（4）(2)（3）の成果を踏まえて、社会科シティズンシップ教育における道徳性の指導のあり方について考察するとともに、その成果を教材の開発・実施・評価として具体化する手立てについて検討する。

４．研究成果

(1)Citizenship と Moral、Character、Values

本研究が主たる対象とする道徳性は、 シティズンシップ教育においては Moral（道徳）、Character（品格）、および Values（価値）の三つの概念によって捉えることができる。これらのうちの何に重きを置くかによって、シティズンシップ教育の目ざす目標や方向性も変化する。例えば Moral Education が、当事者の置かれた内的な道徳的状況の実在論的説明とその向上方略を強調するのに対して、Character Education は、道徳的存在の前提あるいはその帰結としての外的な習慣や性向の発達に注目しようとする（Walker and Thoma、2017）。また Values は、Moral Education、Character Education のいずれにおいても、その中核を構成する。

本科研に先行する一連の科研において我々は、シティズンシップ教育を「社会への参加・参画を視野に入れた Education for Active Citizenship」と捉えてきたこともあり、本研究においても Moral Education よりも外的指向性の強い Character Education に比較の視点を置くこととした。

シティズンシップ教育や社会科教育では、シティズンシップの思想・哲学的ルーツをプラトンやアリストテレスなど古代ギリシャの先哲に置くシティズンシップを「西洋型のシティズンシップ」、古代中国の孔子や儒教に置くシティズンシップを「東洋型のシティズンシップ」と呼んでいる（Mizuyama et al.、2015）。今日、「東洋型のシティズンシップ」教育では、中国に代表されるように Moral Education が、「西洋型のシティズンシップ」教育では、英国に代表されるように Character Education が強調される傾向にある。また、地理的には東洋にありながら、社会的・文化的には西洋的性格を色濃く持つ国・地域にシンガポールや香港がある。これらの国・地域では、住民の多くを中国系の人々が占めるものの、歴史的に英語を公用語とするなど、西欧型・東洋型の文化や教育の融合がはかられてきた。そこで本研究では、日本と同じアジアにあって、共通のアジア的シティズンシップを基盤とするこれらの国や地域における道徳教育とシティズンシップ教育の関わりについて考察するとともに、英国を視点として比較することで、カリキュラムのあり方について検討した。

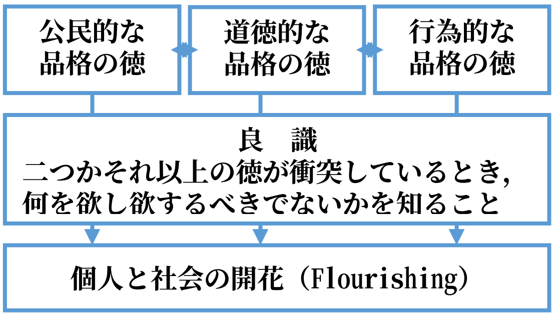
（2）英国における Character Education

今日、Character Education に関して最も積極的に発信している研究機関の一つは、英

国バーミンガム大学の Jubilee Center である。同センターは Character を「その人なりの道徳的感情を湧き出させ、動機を形成し、行為を導く一連の個人的な特質であり性向である」と定義するとともに、Character Education の特質を、次のように述べている。

Character Education の究極の目的は、「人間性の開花であり、人間性の開花は、多様な実践や行動において卓越する道徳的・知性的・市民的な徳と、自己管理の包括的な徳（それは行為の徳として知られている）を要求する」。また、「良識（good sense）もしくは実践知（practical wisdom)、すなわち、多様な選択肢の中から賢く選びとる能力の伸張である。この能力は、困難な状況下でいかに正しい行為を選択するかを知ることを含んでおり、この能力は選択と倫理的洞察の経験から徐々に生まれるものである」（The Jubilee Center、 2018）

そして個人と社会（における人間性）の開花を次のように構造化している。



図①　Character Education の構造

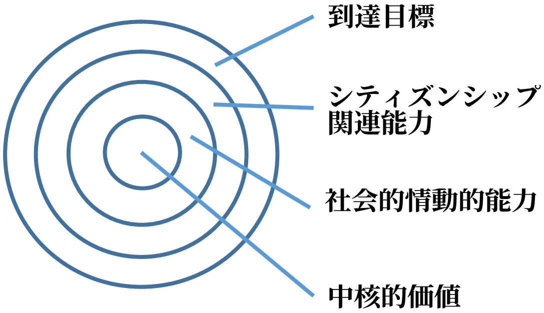
図①に示すように、Jubilee センターは、Character Education を市民性と道徳と実践のアンブレラ概念として捉えている。そこでは Character（品格）は道徳とシティズンシップの上位概念と位置づけられるがゆえに、品格は道徳的内省と能動的シティズンシップの両面を兼ね備えたものとなっている。

（3）シンガポールにおける Character and Citizenship Education（CCE）

アジアにおけるシティズンシップ教育の先進地の一つ、シンガポールでは、1980 年代の Moral Education、1990 年代以後の Civics and Moral Education への強い関心を経て現在、シティズンシップや道徳性の教育は、Character and Citizenship Education（CCE）として一体化されている。日本の学習指導要領にあたる CCE シラバスは、CCE の目標を「生徒たちを良き個人であり、且つ有用な市民へと成長させるために価値を教え能力を育てることである」と定めるとともに、CCE の意義を次のように記している。

「CCE は 21 世紀型の能力と生徒の到達目標のための枠組みにとって、中心的な位置にある。それは、中核的価値、社会的・情緒的能力と公民としてのリテラシー、グローバルな気づきと異文化間スキルの連結を強化するとともに、生徒の品格とシティズンシップの発達にとって決定的に重要である」（MoE Singapore、2014）

そして、次のような CCE フレームワークを作成している。



図②　CCE のフレームワーク

また、図②の個々の要素を次のように説明している。以下、要約すると、

○中核的価値：

尊敬、責任、清廉、面倒見、復元力、調和

○社会的情緒的能力：

自己認識、社会認識、自己管理、（人間）関係管理、責任ある意思決定、

○シティズンシップ能力関連スキル　：

・批判的・創造的思考
・コミュニケーション・協働・情報スキル
・公民リテラシー、グローバル認識と異文化スキル

○到達目標：

自分に自信が持てる個人、自分で自分を方向付けられる学習者、能動的な（共同体への）貢献者、（社会と）関わりを持っている市民

加えて、６つの領域と３つの理念によってカリキュラムを構造化するとともに、各マトリクスに鍵となる問いをあてはめている。

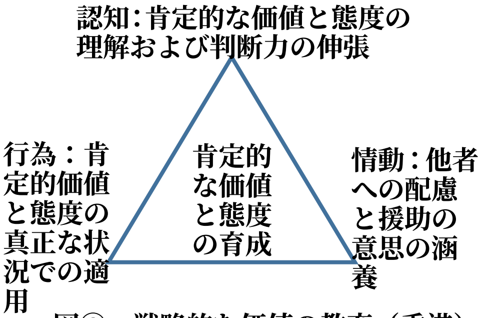
以上に示すように、シンガポールの CCE の「価値」においては、英国 Character 教育の「徳」と比べても、道徳的な価値が重視されている。また、道徳的な価値を中核としてシティズンシップのスキルをその外延に位置づける点で、上位概念としてのシティズンシップを教育の目標として重視している。

（4）香港における Moral and Civics Education

アジアにおいてもう一つ、西洋的要素を強く加味した道徳性やシティズンシップの教育に関心を寄せている地域に香港がある。周知のように香港は、世界中の多様で膨大な情報が行き交う国際貿易都市であるとともに、英国から中国へ主権が返還されてから 20 年にみたない複雑な歴史的背景を持っている。

香港ではこれまで、「教育カリキュラム基本ガイド（小１～中３）」（2002）において、学校は５つの優先的価値と態度（忍耐、他者への尊敬、責任、国民意識、深い関与）を育

てることとされていたが、「改正公民・道徳教育カリキュラム・フレームワーク」(2008)では、それらは（忍耐、他者への尊敬、責任、国民意識、深い関与、高潔、他者への配慮）の７つとなった。これら７つの価値や態度を育てるために、学校は、子どもたちに良い経験をさせるとともに、包括的なカリキュラムをつくることが要請されている。そのために次のようにカリキュラムを構造化している。



図③　戦略的な価値の教育（香港）

香港における道徳と公民の学習は、認知と情動と行為の３つの学習領域に支えられた肯定的な価値と態度の育成を中核に置き、それを学級での学習と実際の体験と学習経験が支える構造になっている。シンガポールと比べた香港の特色は、シンガポール同様、教育の中核に価値語をおいていること及び、Respect、 Responsibility、 Integrity、Care の４つはシンガポールと全く同じ価値語を用いていることである。他方、シンガポールが価値としての Harmony を重視するのに対して、香港では National Identity を中核的価値に位置づけている。

また、より構造的には、児童・生徒に獲得される能力をベースに学習を構造化しようとするシンガポールに対して、学習方法や学習場面を中心にして組み立てようとするところに香港の特徴がある。

ちなみに、なぜ香港で「道徳と公民の教育」なのかについて、カリキュラムガイドには次のように記されている。

「社会の急速な変化と子どもたちの発達面での必要性に応えるために、学校は子どもたちの自立した思考と自発的な学びの力の育成を強調すべきである。困難に直面したとき、子どもたちはそこに内包される価値を見つけ、論点を客観的に分析し、合理的に判断し、行動しなければならない。そうすることによって、かれらは来たるべき人生における様々な挑戦に備えることができる。」（香港政府教育庁、2014）

香港では今、中国の国際公約である一国二制度のもとにありながらも、中国化（本土化）が日々強められつつある。この現実に対して香港の若者は、移民として欧米等に脱出するか、地元（香港）に残るかの選択を迫られている。この悩みや苦しみは、学生のみならず香港市民全員が共有しており、香港教育行政担当者も例外ではない。理屈では香港は中国の一部とわかっていても、心でも完全な中国化を無条件に受け入れているわけではない。その結果が子どもたちの自立した思考の強調となっている。見方を変えれば、香港の置かれた困難な状況への対応であり対抗の精神が７つの価値に凝縮されている。

この複雑な立ち位置は、７つの価値の一つである国民意識の説明においてより鮮明となる。曰く、

「国民意識（national identity）

- 個人のアイデンティティやシティズンシップと、国民意識の間には密接な関係がある。社会と国家の持続可能な発展は、市民と国民の間の帰属感に強く基づくとともに、彼らに一体感をもたらす。
- 香港は中国の一部である。児童・生徒が、早い段階から、彼らが住み続けてきた場所を理解するとともに国民意識を発展させることは、香港の学校カリキュラムの主要な目標の一つでもある。しかし、そのことは彼らに愛国心（national sentiment）を押しつけることを意味しない。
- 国家の持続的な発展において、児童・生徒が国について理解する、すなわち「香港基本法」と「一国二制度」の理解を高め、国民意識を強めていくことは、個人の未来の発展と社会全体の改善に資する。
- 中国語を話せない児童・生徒も、(人々の)相互の尊敬と社会の調和を発展させるために中国について理解を発展させるべきである。」（香港政府教育庁、2014、ｐ.4）

国民意識（national identity）と愛国心（national sentiment）を混同せず、自立した思考（independent thinking）を道徳教育と市民教育の交差点に置くところにまさに香港のシティズンシップ教育の特徴がある。

（5）まとめと我が国への示唆

英国を視点としたシンガポール・香港の考察から、以下の知見を引き出すことができる。

1）これら３つの国・地域のシティズンシップ教育は、シティズンシップの認識やリテラシーのみならず実践のその中核に価値や徳を置く点において共通性がある。

2) 道徳、価値、品格の３者の関係において、道徳性の構造や価値の捉え方には、それぞれの国の置かれた政治的社会的状況が色濃く反映している。例えば英国においては、政治的リテラシーの育成に重点を置きつつもなかなか成果を上げることができなかった2000 年版、2008 年版ナショナルカリキュラムの下での教育への苛立ち、シンガポールにおいては、周囲をイスラムの大国（マレーシア、インドネシア、フィリピン）に囲まれ、かつ中国系、マレー系、インド系が混在する多民族国家としての自立、香港においては、香港基本法と一国二制度のもとで特別な立場が保証されているとはいえ、中国の圧力が強められる中での香港の自立、といった切実

な課題を抱えている。
3）道徳的価値を中核に置くものと道徳的価値のみならず実践知としての徳（phronesis）を中核に置くものの２種類がある。
4）シンガポールや香港がシティズンシップの獲得を持ってゴールとするのに対して、英国のCharacter Educationは、シティズンシップのさらにその先に、「人間性の開花」という目標を設定しようとする。
以上を総合するに、現在の日本は、英国のようなシティズンシップのその先を目ざす段階にはまだ達しておらず、その点、シンガポールや香港のような価値と道徳の教育に学ぶものが多い。また、公民教育と価値教育の間にシティズンシップ教育を挟んでいくやり方が、日本における道徳性の捉え方にもっとも馴染みやすいといえる。

〈引用文献〉

① Ministry of Education, 2014, Character and Citizenship Education Syllabus Primary, Singapore.
② Mizuyama, M., Davies, I., Jho, D., Kodama, S., Parker, W. and Tuduball, L, 2015, East and West in Citizenship Education: Encounters in Education for Diversity and Democracy, ***Citizenship Teaching and Learning***, 10-1, Intellect.
③ The Curriculum Development Council, 2002, Moral and Civic Education, ***Basic Education Curriculum Guide -Building on Strengths (Primary 1 to Secondary 3)***, Hong Kong
④ The Curriculum Development Council, 2014, Moral and Civic Education, ***Basic Education Curriculum Guide -To Sustain, Deepen and Focus on Learning to Learn-(Primary 1-6)***, Hong Kong.
⑤ The Jubilee Center, A Framework for Character Education in Schools, pp.1-2）.
⑥ Walker, D. I. and Thoma, S. J, 2017, Moral and Character Education, ***Oxford Research Encyclopedia of Education.***

５．主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計　5　件）

① 水山 光春、東瀬 里穂、小山 歩、曽我 将司、深藏 心理、三品 知恵、小学校社会科が担う主権者教育、京都教育大学教育実践研究紀要、査読無、18、2018、203-212.
② 藤原 孝章、大学生と小学生の協同的な学習による主権者意識の向上について～選挙体験ワークショップの取り組みから～、現代社会フォーラム（同志社女子大学社会システム学会）、査読無、2018、1-13.
③ 田中 曜次、規範意識を育てる、京教社会、査読無、21、2017、63-65.
④ 水山 光春、日本におけるシティズンシップ教育の展開可能性、指導と評価、査読無、742、2016、57-59.
⑤ 上地 完治、道徳の教材化の意味－道徳の時間の特設から積み残された課題－、教育哲学研究、査読有、112、2015、114-129.

〔学会発表〕（計　4　件）

① 吉村 功太郎、見方・考え方の役割と英国シティズンシップ教育におけるストランドの役割－英国テキストブックの学習活動分析を通じた比較検討、第43回 日本教科教育学会全国大会、2017.
② MIZUYAMA Mitsuharu, KUBOTA Tsutomu, Citizenship Education Fostering Sense of Self-affirmation and Participation in Society, 12th CitizED International Conference on Citizenship Education and Teacher Education、2016.
③ 藤原 孝章、日本における Post15 の議論と Global Citizenship Education、第 16 回 韓国国際理解教育学会学術大会、2015.
④ 藤原 孝章、社会科における包摂と排除－主権者教育の落とし穴－、第64回 全国社会科教育学会研究大会、2015.

〔図書〕（計　5　件）

① 藤原 孝章 他、18 歳成人社会ハンドブック－制度改革と教育の課題－、明石書店、2018、200.
② 田中 曜次 他、新しい教職基礎論、サンライズ出版、2018、158.
③ 水山 光春 他、教育の課程と方法、学文社、2017、228.
④ 上地 完治 他、「特別の教科 道徳」が担うグローバル時代の道徳教育、北大路書房、2016、207.
⑤ 藤原 孝章 他、国際理解教育ハンドブック－グローバルシティズンシップを育む－、明石書店、2015、257.

６．研究組織
(1) 研究代表者

水山 光春（MIZUYAMA, Mitsuharu）
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：８０３０３９２３

(2) 研究分担者

藤原 孝章（FUJIWARA, Takaaki）
同志社女子大学・現代社会学部・教授
研究者番号：７０３１３５８３

上地 完治（UECHI, Kanji）
琉球大学・教育学部・教授
研究者番号：５０３０４３７４

吉村 功太郎（YOSHIMURA, Kotaro）
宮崎大学・教育学研究科・教授
研究者番号：００２７０２６５

田中 曜次（TANAKA, Yoji）
同志社大学・免許資格センター・准教授

研究者番号：９０５１１０６４